信毎歌壇

小池　光選

縁側に冷えた西瓜を置きながら祖母の団扇の風がやさしく　（塩尻市）島津　文雄

この地球は人間だけのものじゃない動物たちはみんな言ってる　（佐久市）荻原多美子

大谷が生活リズムの中心になりて久しき退職の日々　（佐久市）吉岡　道明

ラッパ吹き商店街を練り歩く赤い帽子の園児の列よ　（小諸市）加藤　陽介

酔えばよく兄が唄いし詩の悲し「蘇州夜曲」の花散る春は　（長野市）北沢　京子

南天の花は咲きたり白き花争ひある世に抗ふごとく　（飯田市）矢崎　俊一

夜の更けて蛙の鳴く声聞きながら眠りに入りし昔なつかし　（飯山市）小野沢竹次

人の目を気にせぬことが芸術のスタートなのだと棟方志功　（安曇野市）細川　恒

我が孫はどこに居るやら居ないやら八百人の大運動会　（佐久市）小泉　英介

縞馬のごとき斑な肌みせて白馬三山今日も動かず　（長野市）松本　博人

佳作

仏像のぬり絵を無心に塗りおれば老いしわが身の心安らぐ　（御代田町）伊沢　ミナ

松本の駅の周囲も変はったが君と別れた喫茶店はまだある　（松本市）平林　大喬

選評　第一首、縁側に冷えた西瓜があり、おばあちゃんが団扇で涼しい風を送ってくれた。クーラーなんて全くないけれど、あの夏の方がずっとしのぎやすかった。第二首、いつのまにか人間が地球の王様となり、ほかの生き物のことを考えない。その思い上がりからのしっぺ返しがいろんなところで起きている。第三首、退職して在宅となり、日々の中心は大谷選手の活躍。朝からテレビにかじりつく。

小島　なお選

あさがほがともだちよりもちひさいと三月うまれの一年生いふ　（安曇野市）細川　恒

ネット上の言葉をすべて無視したら笑顔の亡母立ち上がりたり　（塩尻市）藤森　円

レジ前で「それは駄目よ」と叔母さんが力まかせにお金を寄越す　（安曇野市）堀部　明兎

突然にテレビ壊れて静かなり我家の素顔現はれて来ぬ　（小海町）依田　久代

パラパラの障子張り替え一服す遺影の三人よしと頷く　（上田市）宮崎　拓男

文面に互ひの夢の滴つて夜のやり取り紫陽花めいて　（横浜市）街川　二級

プラごみを袋に詰めて踏み込めば蝮の如く起き上がりくる　（飯田市）林　湜和

根を張りてちぎれ手を焼く庭草をアメリカフウロとAI教える　（松川町）小川　陽子

千品目の値上げのひとつ六月の豆腐の白きを小さく刻む　（長野市）宮下　重美

山菜を採る人から買う人になり熊出没を案じる八十路　（飯綱町）小林　紀子

佳作

しとしとが好き六月に降る雨はいつでもどこでもしとしとがいい　（岡谷市）川村　修平

カテゴリは女の前に人間でグラスに付いたリップを拭う　（松本市）点　と　弧

選評　第一首、早生まれのその子はクラスでも小さいのだろう。育てる朝顔までも小さいことが寂しく不満。第二首、誹謗中傷ひしめくネットの言葉。自分を肯定してくれた母の言葉だけを信じられたらいいのに。第三首、お金を払わせない叔母の気遣い。「力まかせ」に場面がよく見えておもしろい。第四首、画面や音からふいに意識が離れる。家にも「素顔」があるという発見がぞわぞわと魅力的。

米川 千嘉子 選

われにまた別の人生ありしかとスーツをはじめて着る学生を見る　（安曇野市）細川　恒

「損壊罪」などと殊更何故ならむ親しみし国旗奪はるるごと　（伊那市）堀米　好美

水田に影を映して山羊二匹田植えまじかの朝の畦ゆく　（松本市）輿　絹枝

「おそかった」これ履いてもといっちゃんの靴の底には〈駿足〉の二字　（佐久市）橋詰美代子

AIに問うた結果の逮捕劇ファンは案ずる家族の絆　（小諸市）星野　直人

「いい顔になりなすった」と言われたり六十年前の男友達に　（長野市）渡辺　和代

水張田、郭公の声、供狩り　古郷恋し幼日恋し　（木祖村）佐々木千代子

若き日に噴水止まりし公園で友と歌った「人間なんて」　（信濃町）吉沢　英夫

母は今日施設へ入居す見納めに畑を見渡し何やら呟く　（箕輪町）佐々木安教

世帯主変わりましたよ誰も居ぬ空き屋に巣作りしてるツバメに　（千曲市）北村　英子

佳作

ビルの隙の遥かな槍ケ岳に手術する友の生還祈ったあの日　（松川村）岡　豊村

遠き昔学校に農繁休みありし頃母と百炊せし万座温泉　（千曲市）荒井よし子

選評　第一首、社会人になった教え子と会ったのだろうか。その成長ぶりではなく、普段はあまりスーツを着ない教員の仕事を選んだ自分について思ったのが印象的。第二首、国旗損壊罪を制定しようという動きがある。そうした縛りは「国旗奪はるるごと」というのが鋭い。第三首、畦をわたる山羊の姿が童画のようで美しい。第四首、駆けっこが真剣勝負だった昭和の運動会を思い出す。